

平成30年2月21日

発言者	発言要旨
佐藤（藤）委員	今冬の除雪の稼働状況と除雪体制はどうなっているのか。
道路保全課長	<p>除雪の稼働状況は日々報告をもらっているが、毎日の集計は行っていない。</p> <p>今冬は、豪雪が続いたため夜間の新雪除雪、日中の路面整正や排雪などを連続で行っており、委託業者には非常に頑張ってもらっている。</p> <p>除雪体制は、除雪機械約600台、人員は1,200人ほどで業務を行っており、交替で作業をしているが、連続的な作業となっており、人のやりくりが非常に厳しいと聞いている。また、全域で大雪となっているため、地域間での人員の調整ができない状況である。</p>
佐藤（藤）委員	除雪のやり方に工夫はできないのか。
道路保全課長	<p>除雪を効率的に行うため、市町村と路線を交換するなどの調整をしている。</p> <p>今冬は、山形県道路雪害対策本部を設置し、警戒体制に入っているが、現時点で市町村間での調整が必要な状況までには至っていない。</p>
佐藤（藤）委員	庄内空港の今冬の欠航状況はどうか。
空港港湾課長	例年、年間30便前後の欠航があるが、今冬は50便程度の欠航となっている。
佐藤（藤）委員	欠航の発生は庄内空港のリモート化が影響しているのではないかと。
空港港湾課長	欠航の発生原因については、除雪にはしっかり取り組んでいるものの、降雪による視界不良などが原因で離着陸できず、発生することが多くなっている。
佐藤（藤）委員	滑走路の状態をどのようにパイロットに伝え、誰が離着陸の判断をしているのか。
空港港湾課長	空港管理者である県は、航空機の離着陸前に滑走路の摩擦係数を測定して、仙台にある航空管制機関に報告している。これを受け、航空管制機関では摩擦係数などの情報をパイロットに提供し、最終的にパイロットが離着陸の判断をしている。
佐藤（藤）委員	庄内の冬の気温は、例年だとマイナス2度からマイナス3度くらいだが、今年はマイナス13度という日もあったことで水道管凍結が多数発生した。県では発生件数を把握しているか。
水道事業課長	<p>一般家庭の水道管の凍結・破損については食品安全衛生課が所管しており、発生件数などの詳細は同課で把握している。新聞報道や同課からの情報では、今年の2月初め頃、庄内では鶴岡市、酒田市とも1千件以上の苦情や凍結、破損などの事故があったとのことである。</p> <p>企業局の状況は、県全体で広域水道の1月の給水量が5%程度増加した。原因を市町村に聞いたところ、今回の寒波により、水道管の凍結破損による漏水や凍結防止のための出し水などで、水道水が多量に使われているということであった。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
佐藤（藤）委員	<p>空き家で水道管の凍結破損があったがどうしたらいいかとの問合せも何件か受けたので、市に相談するよう伝えた。</p> <p>今年の冬は異常で大変だったと思う。まだ冬は終わっていないので、これからもしっかり頑張ってもらいたい。</p>
広谷委員	<p>毎年、降雪状況が違うが、豪雪となった場合には、県としてどこに力を入れて対策を行っていくのか。</p>
道路保全課長	<p>幹線道路で通行止めが発生し、長期化すると県民生活に大きな影響が出るため、一時的に全面通行止めをして集中的に除排雪を行うこととしている。</p> <p>これは、災害対策基本法に基づき、区間を定めて行うもので、県管理道路での実施の実績はないが、国では実施している。</p> <p>また、山形自動車道の関沢から山形蔵王間で冬季に事故や除雪による通行止めをする場合は、並行する国道286号に車両を誘導するため、県と警察、NEXCOの三者で連絡を取り合いながら対応することとしている。</p>
広谷委員	<p>日中に降雪があった場合は、夜間よりも影響が大きく、機敏に除雪しなければならない。特に高速道路と一般道の連携した除雪が必要であり、豪雪が見込まれる本県の県境部について、より一層力を入れてほしい。</p>
広谷委員	<p>除雪費に対する国庫負担率が年度によって変動する理由は何か。</p>
道路保全課長	<p>国からは、年度当初に予算が配分されているが、降雪の状況を見ながら予備費から追加配分される。全国的に豪雪となった場合は、降雪が多い県から配分されることから、追加配分額によって国庫負担率が変動することになる。</p>
阿部（信）委員	<p>今冬の凍上災採択の可能性についてはどうか。</p>
砂防・災害対策課長	<p>凍上災の採択については、異常気象と言えるほど気温が低下していることが条件になる。その判断に凍結指数を用いているが、県内にある気象観測所のうち18か所の観測所のデータが基準になり、どの観測所においても10年確率を超える見込みが現時点では低いので、今年の寒さは異常気象とまでは言えない。結果的に、今年の凍上災の採択は難しいと判断している。</p>
阿部（信）委員	<p>凍上災が採択された場合の効果はどうか。</p>
砂防・災害対策課長	<p>過去の凍上災の採択事例では、平成18年で約90億円、23年で約9,000万円、24年で91億円程度の査定結果となっている。</p>
阿部（信）委員	<p>県内市町村で除雪機械の位置情報システムを導入しているようだが、除雪作業の見える化について、県ではどのように考えているか。</p>
道路保全課長	<p>県では、除雪作業による通勤・通学時間帯の渋滞を避けるために、新雪除雪は深夜から早朝に行うことを基本としていることから、システム導入により、リアルタイムに除雪車の位置情報を住民にお知らせすることのメリットは少ないと考えている。</p> <p>一方、県では稼働状況の集計や走行履歴の把握についてのシステム導入を検討して</p>

発 言 者	発 言 要 旨
	いることから、除雪機械に位置情報システムを搭載することについて、メリットとデメリットも考えながら検討していく。
後藤委員	米沢ヘリポート維持費について、18万6千円の減額補正の理由を教えてください。
管理課長	ヘリポート周辺における高さ制限にかかる支障木伐採の業務委託の実績に伴う減額補正である。なお、これは置賜総合支庁の予算となっている。
後藤委員	現在の米沢ヘリポートにおける年間指定管理委託料が635万円となっているが、職員は常駐しているのか。また、除雪も行っているのか。
空港港湾課長	運用時間中は職員が常駐しており、利用の要請に備えて除雪も行っている。
後藤委員	年間の利用回数はどの程度か。また、収入はどのくらいか。
空港港湾課長	平成4年度の開設以降、農薬散布の利用が多かったが、近年は減少している。現在は、警察・消防・救急の安全安心を支える公的利用のほか、測量調査等の民間利用で年間50～60回の利用となっている。28年度は49回だが、今年度は現在まで57回の利用がある。収入は、年間5万円程度である。
後藤委員	公的な利用は着陸料を徴収できないと思うが、現在の収入状況や利用状況などから、今後のあり方を検討すべきではないか。
空港港湾課長	東北中央自動車道の開通により、高速交通体系も変化しており、今後、利用者等の意見も聞きながら、検討していきたい。
後藤委員	東北中央自動車道の福島大笹生から米沢北まで開通したが、今冬の大雪で課題も見えてきた。 冬期の降雪による事故、トンネル内での事故やICランプでの立ち往生などもあったと思うが、この問題を国とも共有して対応していくべきではないか。
道路保全課長	東北中央自動車道の水窪第一トンネルの重大事故や国道13号の新主寝坂トンネルの死亡事故を受けて、県警からの呼びかけを受け、県、国、NEXCO及び警察と打ち合わせを行い、今後の対応について検討していく。また、国に対しても必要な安全対策を行うよう要望していく。
後藤委員	東北中央自動車道が11月に開通したが、米沢市内に高速道路の案内標識がない。設置の予定はあるのか。
道路保全課長	今回開通した区間における県内3か所のICに対しては、52か所の案内標識を改修することとしている。 開通前に案内標識を修正すると利用者が混乱する恐れがあるため、開通後に改修する計画を立てており、2月19日現在、約半数の改修が完了している。残りについても年度内に完了する見込みである。
矢吹副委員長	今年度は凍上災に該当しないようだが、実際に舗装が傷んだ場合はどのような対応

発 言 者	発 言 要 旨
道路保全課長	<p>をしていくのか。</p> <p>冬期の舗装の損傷は、大雪の場合は大型車のチェーン装着によるものが原因である場合も多い。</p> <p>凍上が原因での舗装損傷であると確認されない場合は、舗装補修費で対応することとなる。予算の40%程度をゼロ県債で予定しているので、維持修繕費と合わせて対応していく。</p>
矢吹副委員長	<p>今冬の寒さで凍上災の採択が厳しいのであれば、採択基準の変更を要望することや壊れた舗装を直す費用に何らかの補助が来るように要望する必要があると考えるが、どうか。</p>
砂防・災害対策課長	<p>凍上災については、平成18年に複数県の要望により採択基準が変わっている。現時点ではどの程度壊れているのかが分からないが、雪解け後に、状況を確認し、凍上により例年以上に壊れているようであれば、現在の基準を見直すよう要望することが必要であると考え。</p>